

荒井 ひろみ

理化学研究所革新知能統合研究センター
研究員

安全かつ透明な個別化のためのプライバシー保護データマイニング

§ 1. 研究成果の概要

パーソナルデータの利用における倫理的課題について、採用におけるプロファイリングサービスを題材に整理を行った。人事や採用活動においてパーソナルデータを基にしたプロファイリングや分析結果をもとにしたスコアリングが普及しつつある。そのような状況において、いわゆる「リクナビDMPフォロー事件」が2019年8月に社会問題化した。リクナビDMPフォロー事件においては一部の学生個人毎の内定辞退予測スコアを適切な同意なしに契約企業に納品したことが問題であり、本研究ではこの経緯を時系列で整理し法的・倫理的な論点を概観した。特に個人が識別可能な情報を第三者に譲渡するにもかかわらず「特定の個人を識別できない」と説明していたこと、サービス移行時に個人データの扱いを変更したがプライバシーポリシーに不備を生じさせ一部のユーザーから有効な同意を得ていなかったことなどを問題点として整理した。

上記を受けて、パーソナルデータの情報の流れやそのプライバシーリスクを整理して説明する方法を構築している。今年度は数社のプライバシーポリシーの抜粋に対して分析、考察を行った。

さらに前年度に引き続き機械学習モデルの説明における公正さの偽装可能性について研究を実施し、ICML2019における学会発表及び国内外での講演を数回行った。